8月11日（金・祝日）

開催場所：都幾川二瀬橋

天候：晴れ・平水

一般参加者： 43人（大人25人・こども18人）

スタッフ： 22人

　事前に東松山土木事務所に出向き、占有許可証を提出。嵐山町には一般参加者用として閉鎖したプールの駐車場を借用申請して許可を受けた。前日に会場となる二瀬橋の上下流の高水敷きの草刈り作業を3名で実施。終了後に高坂の倉庫に行き、資材を２台の軽トラに分けて積み込んだ。

　当日は7：30に現地に集合して会場設営を開始。8：00にスタッフミーティングを実施し、作業の確認を行なった。テントを１張り設置し、橋の下にシルバーシートを敷き、会場を作った。水量が少し減っていたため、地曳網漁を予定通り実施することにした。9：0０過ぎから参加者が徐々会場に到着し始め、暫時ライフジャケットを着用してもらった。

　9：30開会式で地曳網漁とタイムスケジュールについて説明し、安全に川遊びをするためのポイントを解説して体験事業をスタートした。例年のように瀬張り網を橋の下に設置した後、下流に移動して上流に向かい全員で曳網を曳いた。二瀬橋の上下流は右岸側に砂礫が堆積して川幅が狭くなり、網を曳くのが難しい状態だったが、網の長さを調整しながら橋の下に設置した瀬張り網近くまで網を曳いた。2つの網の間隔を狭めたところで子供たちに投網の端を持ってもらい、合図で一緒に水面に伏せて魚を捕獲てもらった。アユはいなかったが、オイカワを数尾捕えることができた。

　休憩後、ピストン釣りのプログラムに移り、子供たちに釣りの楽しさを体験してもらった。

　川の中での体験活動が終了後にミニ水族館を開催して、当日捕獲した魚や水性生物を子供たちに紹介した。講師は例年ように埼玉魚類研究会の金澤氏に担当してもらった。

　当日捕れたオイカワなどを素揚げで試食するために、子供たちに内臓を取る作業を体験してもらった。同時にテナガエビの素揚げと高麗川と都幾川で捕獲したアユを塩焼きにして参加者全員に試食してもらった。提供した川の恵みは全て、参加者の胃袋に収まった。

　河川環境が悪く、アユは捕獲できなかったが、天候に恵まれ無事体験プログラムを実施することができた。

捕獲した水性生物

オイカワ、ジュズカケハゼ、ドジョウ、ギンブナ、コクチバス、カワリヌマエビ、アメリカザリガニ、カジカガエル、ウシガエル

人, 子供, 少年, 若い が含まれている画像

自動的に生成された説明